



【TOPICS】

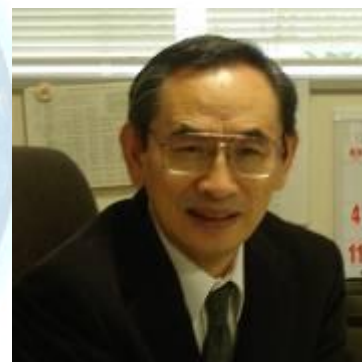
- 実践教育訓練研究協会 会長 新年の挨拶 1
- 2012 実践教育訓練研究協会功労賞および奨励賞受賞者の紹介 3
- ものづくり体験教室（山形・石川）報告 5
- トピックス（山形）報告 7
- 『新企画』若手のホープ 8

【実践教育訓練研究協会 会長 新年の挨拶】

巻頭言 「平成 25 年度を迎えるにあたって」

社団法人 実践教育訓練研究協会

会長 久保 紘



平成 25 年度を迎えるにあたり、新たな年度が皆様の、健康で希望に満ちた年でありますよう、祈念いたします。

昨年度は、協会が発足して奇しくも 25 周年でありました。各種事業、そして研究発表会も「次世代に継ぐ ものづくり・人づくり」というテーマのもとに、25 周年記念大会として、無事乗り切ることができました。事業の方向性を見出してくださった、理事、事務局、また、発表会を意義あるものとしてくださった、運営責任者、理事、事務局、そして参加者、関係各位に、この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

さて、会長就任の挨拶でも述べましたが、本協会は、職業能力開発の一端を担うことにより社会貢献をするということを強く意識して「技能・技術の伝承・開発」から「人材育成」まで、活躍の場を徐々に広げながら時代と共に発展してまいりました。激しく変化する社会にあって、本協会が時代という電車に置いていかれないようにすることが肝要ですが、そのためにも、本協会の位置付けをしっかりとし、本協会が何をすべきか、その理念は何かを明確にしておく必要があると思っております。

定款にありますように本協会は、「人材育成を行うための実践教育訓練技法の確立及び普及を図り、もって職業能力の開発と向上に資すること」を目的として設立されていますので、切り口は「人材育成・

職業訓練・教育」でよいかと思えます。時代は変わり、日本社会は、今や、固有の文化をも捨てざるを得ないほどに、激しい国際競争の場に晒され、第二、第三の文化的変化を起こそうとしています。技能・技術が社会をリードできた時代が去り、経済が国をリードする時代になってきました。特に、人材立国日本では、高度産業技術に対応する技能・技術の確保、演繹的手法による技能の技術化、技術者倫理の持ち方、価値観の異なる人の集まりとなった社会とのコミュニケーションの仕方などに課題を抱えることとなり、従来の「学校教育法」にのっとりた人材育成だけでは、社会が要請する「職」に就く能力も、「社会」を構成する能力にも追い付いていけないことがはっきりしてきました。また一方、職業能力開発も「職業訓練法」にのっとりた職場訓練主体の教育・訓練だけでは、もはや、もたないことがはっきりしています（出展：職業訓練における指導の理論と実際；厚生労働省職業能力開発局監修）。この両者の狭間をきちんと埋めるところに、本協会の役割があることが、はっきりと視えてくると考えています。このことは、日本の歴史的な発展を発展途上国と先進国に重ね合わせて見るとより一層はっきりします。

職業能力開発大学校には、「職業能力開発体系論」という訓練課程があります。時代と共にある社会、経済、文化、技術をよく分析、解析した後に抽出された訓練課程ですから、そこで行っている教育・訓練の内容が、上記理念に基づいて本協会が事業として具現化していく方向性を与えるものになっています。私の個人的な分析ではありますが、該課程は、概ね3つの教科に分類され、次のようになっていると視ています。

「職についての理解」—職業と就職、その目的と意義、キャリア形成論、社会の仕組みと職、技術体系、
職と制度（労働基本法、社会保障制度、公的職業訓練）、職務分析

「職に必要な技術・技能の知識と習得」—実践技術とは何か、技術・技能の知識と習得、技術者倫理、
人権の確保と安全

「生活知識に関わる知識の習得」—社会性と道徳性、人権—健康と心

即ち、本協会は、この、職業訓練体系論に沿って事業を組み立てていくべきと考えています。

一方、運営面から見ますと、本協会は、経済規律を守り、事業を済々に行うために、種々、様々な発展と改革を図る必要があると思っております。そして、今年度は、何よりも会員数の増加と事業収益の確保に重点をおいて行きたいと考えています。

理事をはじめ会員各位の、ご理解とご支援をお願い申し上げ、新年度の挨拶とさせていただきます。

【2012 実践教育訓練研究協会功労賞および奨励賞受賞者の紹介】

2012 実践教育訓練研究協会功労賞受賞者の紹介



実践出真知

前理事、建築・デザイン専門部会長
石丸 進

実践教育研究発表会、2012 神奈川大会で協会役員としての活動に対して、功労賞をいただき任期を終了することができ感謝しております。実践教育ジャーナル Vol. 27, NO. 3, 2012, 9月号の巻頭言で、私見を述べましたのでご覧ください。(題目の「実践知真知」は「実践からほんとうの知識が得られる」)。

朝日新聞GLOBE2月3日によると、GPDに占める製造業の比率はG8メンバーの中で最も高い国はドイツで23%、日本は19%、米国は12% (日本貿易振興機構調査) であり、多くの人がドイツならではの指摘するのが、**職人**がきちんと教育され世の中で大事にされる環境があり、現場に強い**職人**や技術者を生み出しているドイツ独特のやり方である。実践研メンバーで昨年4月に訪問した中国上海市内を走る車種は、10年前は日本車が多く見られたが、現在はドイツ車のワーゲン・サンタナが圧倒的に多く見られたのも中国におけるドイツ製品の強さを示していると思われま

日本で**職人**という語が存在したのは、13世紀前半の室町時代であり、職人は「しきにん」と読まれていた。しかもこの場合の「職人」(しきにん)は手工業者だけでなく、多種多様な商人、医師、鍛冶、番匠、塗師、壁塗、刀研、鋳物師、巫、博打、海女、遍歴人などが含まれていました。「職人」(しきにん)は15世紀までは用いられ、16世紀荘園公領制の「職」の秩序消滅とともに消えて、「職人」(しよくにん)に変わり、近世の使い方に近づいて、「工作を職とする人」つまり手工業者をさす言葉になった。

ともかく中世の南北朝内乱を境として前期と後期では言葉がその意味の上で変化しています。中世社会の職人の身分は、自由民に属し諸国を自由に往来し売買交易し、腕を磨くこともできたといわれます。職人は平民の負担する年貢・公事を全部あるいは一部免除され、そうした特権を保証される代わりに、自らのもつ専門的な職能を通して、天皇・院あるいは関白家、将軍家、寺院、神社に奉仕する義務がありました。「職人歌合」という職人づくしが鎌倉時代の後期から出てきます。そこには手工業者はもちろん、商人、芸能民、あるいは宗教者、博打、海女、そして知識人とも言うべき医師も含まれていました。芸能という言葉は「武芸」でもあり、弓道の道は「芸能」で、手工業者も狭い意味の芸能民で技術・技能を示す言葉として、きわめて広い意味で使われてきました。

なお、「職人考」として実践教育研究発表会、2013 関東能開大で発表する予定で研究中です。

「職人」に関するキーワード： 工匠、手人、巧匠、工師、工人、職工、工具、職能、芸能、諸職、細工人、道々の輩、技能

【2012 実践教育訓練研究協会功労賞および奨励賞受賞者の紹介】

2012 実践教育訓練研究協会功労賞受賞者の紹介



京都府左官技能専修学院
杉本 誠一

月日は早いもの、実践研との出会いは1988年建築・デザイン系初回の発表会が北九州短大（現九州能開大）で開催された時。建設業界から訓練界へ転職してまだ数年の頃、学生の指導方法に行き詰まりを感じ、「だれか相談に乗ってくれる人はいないか」と九州へ。いろいろな人々と出会い、酒を飲み、議論をし、学びあうことが成長を助けてくれました。今はジャーナル編集や系学習会などの後方支援で恩返し。さて、昨今体罰問題が話題になっています。たたかれて成長することはありません。学ぶことも同じではないでしょうか。与えられた研修で大きな進歩はできません。実践研は自らやりたいことを存分にできる環境があります。互いの研鑽で自らを磨いていく場を広げるのに、もう一頑張りしたいと思います。

【2012 実践教育訓練研究協会功労賞および奨励賞受賞者の紹介】

2012 実践教育訓練研究協会研究奨励賞受賞者の紹介



株式会社 図研 営業技術部 濱田麻衣子

2011 実践教育研究発表会千葉大会において発表した「品質を考慮した基板実装セミナーの開発」について研究奨励賞を頂きました。日頃お世話になっております皆様に心より感謝申し上げます。

本発表のテーマとなった「基板実装セミナー」の教材作りに取り組み始めたきっかけは、何よりも「教育現場からの声」でした。以前より図研では、教育現場向けにSI(Signal Integrity)やEMC(Electro Magnetic Compatibility)のセミナーの提供をおこなっており、多くの実績もあげてきました。しかし、受講した方々から「もっと現実の製品設計に近い教材があればより理解が深まる」という意見をいただき、教材開発を開始しました。



実装例比較

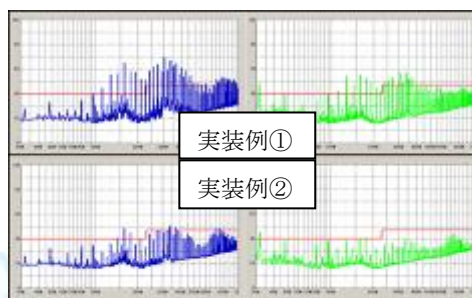
SI/EMC セミナーの応用編という位置づけで、当初は SI/EMC についてきちんと考慮していないと正常動作しなくなる「トラブル体験キット」のような回路を作れないかと考えました。しかし、そのような回路を生み出す作業は困難を極めました。なぜなら、トラブルとは予期せず起こるものであり、故意に誤動作する回路を作るというのは熟練エンジニアでも難しいものだったからです。

そこで、誤動作しないまでも、設計手法によって SI/EMC 品質の差が見えるであろう回路を考案し、社内テストを行ったところ、電気設計のスキルや経験の差によって、品質も大きく異なることがわかりました。

そして、想定していなかった効果も確認することができました。それは、経験やスキル有無に関わらずこの社内テストに参加した全員が、「いい基板を作ろう」と最後までやり通す姿があったことでした。これこそ「ものづくりに関わるものの姿」だと思います。

本セミナーは既に多数の施設に導入していただき、おかげさまで高評価をいただいています。

図研では、今後も現場で役立つセミナーを開発していきます。皆様のご意見、ご指導なども頂戴できれば幸いです。



放射電界測定結果比較

【ものづくり体験教室報告】

山形で初めてプレス加工の公開講座が実施される

山形県立産業技術短期大学校は CAD/CAM を駆使するモノづくり技術者育成を目指し、平成 22 年にデジタルエンジニアリング科を新設しました。金型設計製作を主たる教材とするため、プラスチック射出成型機とサーボプレス機械も新たに整備しました。そこで、当科のこけら落としを兼ねて、平成 23 年 10 月に「サーボプレス活用入門」の公開講座を開催しました。講座内容が最先端のサーボプレス活用事例であり、我々内部講師では対応できないため、コマツ産機（株）稲葉励氏と山道頭氏に講師を依頼しました。講座では最近のプレス機械の動向、プレス加工製品のリンクモーションの効果および最新のサーボプレス活用事例などを詳しく紹介されました。また、サーボプレス機を使用して、受講者が設定したリンクモーションで打ち抜いた鋼板のせん断面の観察やアルミニウム丸棒のすえ込み加工の影響などを実験的に検証しました。県内ではこれまでプレス加工関連の講習会の実績はなく、関係企業から受講者が参集し、熱心に聞き入った様子でありました。公開講座終了後のアンケートでも全員が「満足」の回答であり、非常に有意義だったと思います。最後に、講師派遣と非常に高額な金型搬送費など全面的にご支援いただいたコマツ産機（株）関係各位にお礼申し上げます。



講義風景



実習風景

(山形県立産業技術短期大学校 来次 浩之)

【ものづくり体験教室報告】

総合制作実習成果発表 地元小学校におけるものづくり体験教室

石川職業能力開発短期大学校は、地域に根ざした活動の一環として、各種ものづくり体験教室を実施しています。今回は、総合制作実習の成果発表の一環として「メタル輪ゴム銃の組立」を行ないました。石川県鳳珠郡穴水町の小学校（5～6年生）に対し、総勢70名でものづくり体験教室を実施しました。

今回のものづくり体験教室を実施したきっかけは、生産技術科2年生の4名が、総合制作実習を行うにあたり、若年者のものづくり離れが叫ばれている中で、いかに子供達にもものづくりに興味を持ってもらえるか、技能の伝承を行うにはどうしたらよいか、学校祭等のイベントで楽しんでもらえることは何か等を考え、実施しました。実際に設計段階から子供達に喜んでもらえるか、扱いやすいか、安全性は大丈夫か等を考慮して試作し、毎日夜遅くまで改良を重ね、当日を迎えました。

体験教室は指導員と学生が担当し、指導員によるものづくりの重要さの講義の後、学生達が講師となり、組立を行いました。体験教室後のアンケート結果では、メタル輪ゴム銃の重量やデザイン、組立難易度等において、満足してもらえる結果となりました。今後も地域と連携した活動やものづくり啓発活動等が実施できることを願います。



総合制作実習 担当学生



学生による組立説明



組立後の射撃大会風景

(石川職業能力開発短期大学校 刈部 貴文)

【トピックス】

花笠おどりに挑戦

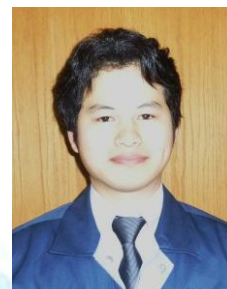
山形県立産業技術短期大学校は平成 24 年 8 月の花笠まつりに初参加しました。一昨年、機械系教員の親睦会の席で、校長が「花笠まつりで学生と一緒に踊りたい」と発した一言がきっかけでした。県内のほとんどの大学は花笠サークルを結成し積極的に参加しているので、本校の存在感をアピールするチャンスということで参加を決意したところです。しかしながら、毎日遅くまで授業している学生にとって、放課後のサークル活動の意識は乏しく、花笠サークルを募集しても応募者はほとんどない状況からのスタートでした。そこで、花笠サークル入部者には「レポート提出延長券」の発行と打ち上げで豪華山形牛バーベキュー開催などの特典を提示し、機械系の学生を中心としてようやく最小限の人数を集めることができました。花笠踊りには多数の流派が存在しますが、最もダイナミックな踊りである「笠回し」を選択しました。民族サークル「四方山会」の指導を仰ぎながら毎週練習を続けたところ、参加者も次第に増え、最終的に職員も含めて 44 名の花笠サークル「産技短」を結成することができました。花笠おどりの練習風景は地元新聞にも掲載されました。花笠まつり当日、数千人にも及ぶ観衆の中、1.5 km のコースを校長と一緒に力強く踊りました。踊り終わった時、誰もが達成感を味わい、祭りの余韻を存分に楽しみました。学生生活の貴重な思い出をつくることができたのではないかと思います。



(山形県立産業技術短期大学校 来次 浩之)

【実践研のホープ】

全国の指導員から「経験」を共有させてもらえる



群馬県立太田産業技術専門校
杉浦 栄輝

今年度から群馬県で高卒対象の訓練を担当させて頂いています。相模原の職業大卒業後直ぐの指導業務という事もあり、先輩指導員の見よう見まねで訓練を行うような状況です。そんな折、実践教育研究発表会神奈川大会へ初めて参加させて頂きました。参加前は発表しなければいけないという思いが強く、及び腰でした。しかし、参加後の感想は、全国の指導員の先生方が職場で実施・研究なされた内容を発表されるので「自分一人分の発表準備ができれば、何十人もの先生方の知識や経験、ノウハウを聞ける」というものです。今は、職場や実践研において、課題・技術・指導法等に関するノウハウを頂いてばかりの私ではありますが、いつかは発信の一助になればと思っています。宜しくお願いいたします。

編集後記

今回は、2013 年冬号として、当協会の久保会長の挨拶をはじめ、2012 実践教育研究発表会における功労賞・研究奨励賞受賞者の紹介を掲載致しました。また、地域情報として、山形県立産業技術短期大学校と石川職業能力開発短期大学校の取り組み報告を行ないました。次号は、ポリテックビジョンや技能五輪の報告を中心に掲載予定です。

WEB ニュース編集事務局では、皆様からの各地の取り組みに関する情報をお待ちしております。記事半ページ程度、写真2枚程度を添付していただき、以下のメールアドレスへ直接、もしくは編集事務局まで封書にてお送りください。また、こちらからも記事のご寄稿をお願いする場合があります。ご協力をお願いします。

この時期は、異動時期でもあります。勤務先、メールアドレスの変更は、分かり次第、実践教育訓練研究協会事務局までメールまたは FAX にてお知らせください。



発行責任者：久保 紘
発行：(社)実践教育訓練研究協会事務局
〒185-0021 東京都国分寺市南町 2-18-36-203
TEL 042-300-1651 FAX 042-300-1652
<http://www.jissen.or.jp/> E-mail: jissen@nifty.com

編集責任者：刈部 貴文
編集事務局：石川職業能力開発短期大学校
〒927-0024 石川県鳳珠郡穴水町由比ヶ丘いの 45-1
TEL 0768-52-4861
<http://www.jissen.or.jp/> E-mail: jissen@nifty.com

広報委員会 Web Jissen News 編集部門：刈部 貴文・小坂 大吾・鳥谷部 太・永野 秀浩
広報委員会 Home Page 編集部門：安井 雄祐・水渡 博幸・新島 泰宏・太田 隆博
広報委員会 委員長：有田浩之
発行・編集：(社) 実践教育訓練研究協会 広報委員会
JISSEN NEWS 2013 冬(No.178)
